

「私の研究紹介：良いテストを作る」

文学部英米文化学科 准教授 飯村 英樹

私の専門はテストイングと呼ばれる評価に関わる分野です。なかでも、日本人英語学習者が苦手とするリスニング能力に焦点を当てて、高校教員時代から約20年にわたり研究を続けています。今回は「良いテストとは何か」という視点から、私が研究している多肢選択式のテストについてご紹介していきます。

テストには記述式と選択式があります。選択式のテストとは、幾つかの答えの候補から正しい答えを選ぶ形式です。このような選択式のテストを専門用語で「多肢選択式」テストと呼びます。2択、3択、4択・・・どれも多肢選択式です。多肢選択式テストは採点の容易さや信頼性の高さから、皆さんにとっても馴染み深い様々なテスト（英検やTOEIC等）で採用されています。多くの場合は1つの正答に3つの誤答（錯乱肢）から構成される4択問題ですが、4択が他の選択肢数（3択など）に比べて優れているという明確な根拠はありません。選択肢の数に関する研究は、実は100年以上の歴史があるのですが、未だに結論

と呼べるものは出ていません。

テスト理論では、多肢選択肢式における誤答のことを錯乱肢（distractor）とよんでいます。文字通り、受験者を惑わす（distract）役割を果たすため、錯乱という表現が用いられています。錯乱肢には、『正解のように思えるが、明らかに間違いでなければならない』という厳しい制約があり、作成が非常に困難だと言われています。

受験者に選ばれる錯乱肢と選ばれない錯乱肢の差が開きすぎると、妥当性の高いテスト（＝良いテスト）からは遠ざかってしまいます。今後も研究を続け、最適な選択肢数やテストの実施方法を提案したいと考えています。

テストを実施し分析することは、指導の効果を検証するのにとても役立ちます。また、テスト結果を通して学習者自身が自分の強みや弱点を知り、学習の組み立て方を振り返ることができます。テストには、教師と学習者の両方にとって重要な役割があるのです。

住民自治のまちづくり

企画課
☎64-7711

イベントに参加で景品をゲット！（おでかけポイント制度）

おでかけポイントは今年の5月から開始をした新しい取り組みです。

子どもから高齢の人まで幅広い世代に、町内で行われるさまざまなイベントやボランティアへの参加を促すため、参加特典としてポイントを提供し、達成者等に景品を配布する事業です。景品は町内企業等のご協賛により、ご提供いただくこととなっています。（ご協賛企業やポイント対象イベントにつきましては、役場などの町内公共施設に設置しているおでかけポイントチラシをご覧ください）

今からでも参加できるイベントやボランティアはまだあります。

ぜひ、多くの皆さんのご参加をお願いします！

★参加できる人★

- ①町内に居住もしくは通勤通学している人 ②年齢制限なし
※イベントによっては参加に条件があります。

★内容★

- ①町内の32の行事イベントのいずれかに参加 ②3個＝クリアファイル ③6個＝缶バッジ
※6個集めるごとに抽選券を1つ差し上げます。

★抽選会★

3月にふるハートホールで行われる「ばる祭り」で町内企業から寄付していただいた提供品を抽選で配布

